

MC⁺ Monthly

2025年5月

24年度改定検証



リフィル処方、
普及のカギは「かかりつけ医」
診療所の一般名処方「標準型電子カルテ」に期待

医療費適正化



24～29年度で
約4,336億円の効果見込み
第3期計画はコロナ影響含みで1.7兆円の実績に

26年度改定



今夏にかけ
「経営環境」を先行して議論
中医協・総会、物価・人件費高騰の報酬反映が焦点に

ポリファーマシー



健康状態や生活環境など
幅広い情報共有を
「薬物療法情報提供書」活用の新たな仕組みを提示

今夏にかけ「経営環境」を先行して議論 中医協・総会、物価・人件費高騰の報酬反映が焦点に

物価・人件費高騰に迅速に対応する仕組みづくりを一。コスト増をすぐにはサービス提供価格（診療報酬）に転嫁できない医療機関の切実な声を受け、2026年度診療報酬改定に向けては、今夏にかけて医業経営を取り巻く状況からまず議論していく。

「これまでの改定とは相当異なる状況」に配慮

26年度改定に向けて中央社会保険医療協議会・総会では、7月までに現下の医療機関を取り巻く状況や医療提供体制について、まずは議論を進める（図表1）。従来のスケジュールであれば、改定前年の春から夏にかけて総論的な議論（第1ラウンド）を行い、秋から個別具体的な議論（第2ラウンド）に移るが、厚生労働省保険局医療課の林修一郎課長は「物価や賃金、医療機関経営など、これまでの改定とは相当異なる状況にある」と、特別な対応を行う理由を説明。地域医療構想についても、40年を見据えた「新たな地域医療構想」の検討が進んでいることを勘案する必要があるとしている。

7月からは従来のスケジュールに戻り、9月半ばまで総論（その1シリーズ）、続いて各論（その2以降シリーズ）の議論を進める。並行して専門部会・小委員会などでの審議も従来どおりのスケジュールで進めるが、診療報酬調査専門組織の「入院・外来医療等の調査・評価分科会」や医療技術評価分科会からの審議報告については、効率的に議論を進める観点から、総会前に診療報酬基本問題小委員会に報告するプロセスを省

き、分科会から総会に直接報告する運用に改める。

改定の答申は従来どおり26年2月中を予定している。

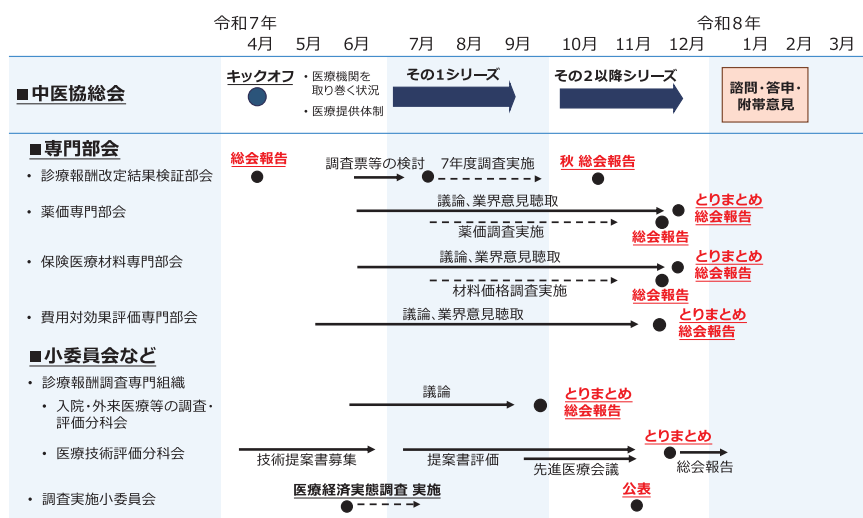
コスト上昇に迅速に対応できる新たな仕組みを

医療機関は物価や人件費の高騰に伴うコスト増で経営がひっ迫しており、特に「病院経営はこれまでに経験のない極めて厳しい状況に置かれている」として、病院団体は診療報酬が物価や人件費の高騰に適切に対応する仕組みの導入を強く訴えている。2年に1度の改定では物価・人件費高騰のスピードに対応できないため、病院経営が悪化しており、医療提供サービスの質が低下するリスク

が高いとし、コスト上昇に迅速に対応できる診療報酬上の新たな仕組みとして自動調整システムや加算制度などの導入を要望している。

夏の参議院選挙に向け、自由民主党も「医療・介護・福祉の現場を守る緊急集会」を開き、日本医師会をはじめ関係9団体が参加するなど、診療・介護・障害福祉等サービス報酬へ物価・賃金を反映させようという気運は高まっている。

一方で、医療保険財政もひっ迫していることを考えると、診療報酬上の対応にも限界があり、物価・人件費高騰分を診療報酬の枠外で患者から徴収できる仕組みが必要との声も聞かれる。今後の中医協・総会での議論が注視される。



図表1 2026年度診療報酬改定に向けた主な検討スケジュール（案）
（出典）中央社会保険医療協議会・総会（第606回 2025/4/9）《厚生労働省》

健康状態や生活環境など幅広い情報共有を「薬物療法情報提供書」活用の新たな仕組みを提示

国立長寿医療研究センターは『切れ目のないポリファーマシー対策を提供するための薬物療法情報提供書作成ガイド』を公開している。強調しているのは、薬剤情報だけでなく、高齢者の健康状態や生活環境を含めた幅広い情報を共有することの重要性だ。

薬剤の処方調整に役立つより詳細な情報提供へ

高齢者におけるポリファーマシーは、薬物有害事象のリスクを高め、生活の質（QOL）にも大きな影響を与える。しかし、入院・退院、在宅、介護施設などと療養環境が変わる際に、薬剤情報が適切に共有されないことがあり、その結果、処方調整を難しくし、薬剤関連の問題が発生してしまっている。そうした現状を踏まえ、同ガイドは、病院薬剤師と薬局薬剤師の情報連携を強化し、ポリファーマシー対策に必要な情報を円滑に共有することを目的に作成された。ポリファーマシーとは、単に服用薬剤数が多いことではなく、「薬物に起因する不適切な問題全般」を意味し、適切な管理や調整によって副作用などのトラブルを減らせば、患者は安全に治療を受けることが可能となる。

これまで、薬剤師が医療機関へ情報提供する際には「薬剤管理サマリー」という文書が使われてきたが、ポリファーマシー対策を進めるうえでは、薬剤情報だけでなく、高齢者の健康状態や生活環境を含めた幅広い情報を共有することが重要となる。そのため、同ガイドでは「薬物療法情報提供書」という新しい名

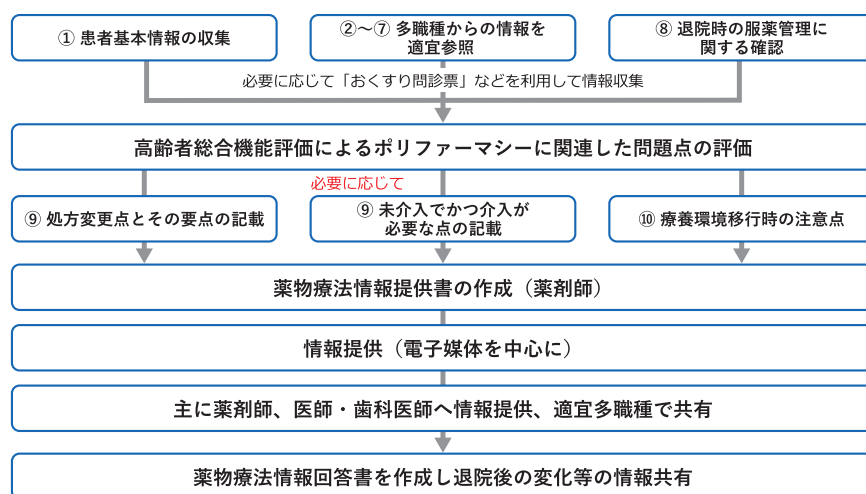
称を採用し、薬剤の処方調整に役立つ情報をより詳細に提供できる仕組みを提示している。

必要な情報の整理と多職種間での共有が重要

同ガイドは、▽薬物療法情報提供書に関して▽「薬物療法情報提供書」作成時の留意事項▽高齢者総合機能評価（CGA）とポリファーマシー対策（薬剤起因性老年症候群、日常生活活動：ADL、認知機能、栄養、社会的要素）▽服薬管理▽処方変更の要点▽処方変更に対する中止・再開等の情報提供▽経過観察に関する事項▽療養環境移行時の注意点（高度急性期病院・病棟、急性期病院・病棟、回復期病院・病棟、慢性期病院・

病棟）▽多職種連携の重要性（医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、リハビリ専門職）▽電子的情報連携についての今後一の10章で構成されている。

薬物療法情報提供書の作成方法や記載例、必要な情報の整理方法を示し、多職種間の情報共有の重要性や情報提供書への回答書の作成についても解説している（図表1）。高齢者が入院・退院、在宅療養、介護施設などの異なる環境を行き来する際、薬剤情報が十分に共有されないと、必要な薬が継続されなかったり、不要な薬が処方されたりすることがある。高齢者ではポリファーマシーの問題が深刻化しやすいため、より適切な情報提供が不可欠となる。



図表1 薬物療法情報提供書作成の進め方

（出典）切れ目のないポリファーマシー対策を提供するための薬物療法情報提供書作成ガイド（2025/3/31）《国立長寿医療研究センター》

Service 01

日刊ニュース

Daily

審議会の動向や重要な事務連絡の解説などをメールでチェック(平日毎日)

Service 02

月刊誌

Monthly

- 1カ月の重要ニュース&注目の話題を総ざらい！
- 本誌は「Monthly」の一部記事を抜粋したものです
- MC plusご契約中はすべての記事の全文をお読みいただけます

Service 03

特集

Scope

関心を集める議論や政策のポイント、新しい事例などを深掘りする特集記事

Service 04

素材提供

Material

公的資料の画像データ(高画質)とテキスト情報を素材として提供

Service 05

最新データ

統計リンク集

重要な公的統計を中心に、約40の最新統計結果を集約

Service 06

学習レジュメ

Tools

厚生政策の基礎知識や最新トピックなどの学習レジュメを毎月発行

price
&
contact

年間

12

(税別)

万円～

医療機関

介護事業所

利用人数制限なし

※1施設あたり
※施設契約のみ

お問い合わせ
・お申し込み



MC plus Monthly vol.74 | 2025年5月20日発行

－ 発行 －

厚生政策情報センター

東京都品川区東品川2-2-20 天王洲オーシャンスクエア22F

☎ 03-5781-1850(代表) ✉ info@wic-net.com

- 本誌は、発行時点の情報に基づき取材・編集したものです、その正確性等について保証するものではありません。
- 本誌のご利用により直接または間接に損害が出たとしても、一切の責任は負いかねます。
- 他者への転送並びに記事の複製・転載等を禁じます。

